

大齋節第1主日 ルカ4章1―13節

〔直訳〕

1 だがイエスは 聖なる霊で満ちて 戻った。ヨルダンから  
そして 彼は導かれていた 霊の中で 荒野の中で  
2 四十の日々 試みられながら 悪魔によって。  
そして 彼は食べなかつた 何も それらの日々の中で  
そして それらが終わって 彼は空腹になった。

3 だが言った 彼に 悪魔は、

「もし 子で あなたがあるなら **神の**、

あなたは言いなさい この石に **それがなるようにと** パンに」。

4 そして 答えた 彼に向けて イエスは、

「書かれている 次のこと」

『パンだけのためではなく 生きるだろう 人は』。

5 そして 導き上って 彼を

彼は見せた 彼に 世界のすべての国々を 時間の点の中で

6 そして 言った 彼に 悪魔は、

「あなたに 私を与えるだろう この全部の権能を そして その栄光を、  
というのは 私に それは引き渡されている

そして 私が欲する誰にであれ **私は与える** それを。

7 **そこであなたが** もし ひれ伏すなら 私の前に、

あるだろう あなたのものです **すべてが**」。

8 そして 答えて イエスは 言った 彼に、

「書かれている、

『主に あなたの神に **あなたはひれ伏すだろう**

そして 彼 だけに **あなたは仕えるだろう**』。

9 だが彼は導いた 彼を エルサレムの中へ、

そして 彼は立たせた 神殿の先端の上に、

そして 彼は言った 彼に、

「もし 子で あなたがあるなら **神の**、

あなたは投げなさい あなた自身を **ここから** 下へ。

10 **なぜなら書かれている** 次のことが

『彼の天使たちに 彼は命じるだろう **あなたについて** あなたを保護することを』、

11 **そして** 次のことが

『手の上で 彼らは持ち上げるだろう **あなたを**、

あなたが打たないように 石に対して **あなたの足を**』。

12 **そして** 答えて 言った 彼に イエスは **次のことを**

「言われている

『あなたは試さないだろう **主を** あなたの神を』。

13 **そして** **終えて** あらゆる 試みを

悪魔は 離れていた 彼から 時節まで。

〔新共同訳〕

1 さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を「霊」によって引き回され、2 四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。3 そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」4 イエスは、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。5 更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。6 そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。7 だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」8 イエスはお答えになった。

『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』

と書いてある。」9 そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。10 というのは、こう書いてあるからだ。

『神はあなたのために天使たちに命じて、

あなたをしっかりと守らせる。』

11 また、

『あなたの足が石に打ち当たることのないように、

天使たちは手であなたを支える。』

12 イエスは、『あなたの神である主を試してはならない』とされている」とお答えになった。

13 悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

①構成

① a 1—2節

a イエスは戻った

b 導かれていた 霊の中で 荒れ野の中で

b' 四十日、試みられながら 悪魔によって

a' 彼は空腹になった

aとa'では能動形が使われ、bとb'では受動形が使われ、霊と悪魔がそれぞれイエスに対して行う行為が述べられている。「霊」と「悪魔」がイエスをめぐって対峙している。

② b 3—4節

悪魔は「神の」を強調するために、「子」から切り離して、最後に置いている。悪魔の考える「神の子」は、石をパンに変える人である。

③ c 5—8節

悪魔の言葉の冒頭に「あなたに」とあるが、これは強調であり、「ほかならないあなたに与えよう」の意味である。悪魔は「私に」引き渡されているから、それができると述べた後に、もう一度「あなた」を「もし」の前に置いて、強調する。

④ d 9—12節

悪魔の誘惑の言葉は次第に長いものに変化しているが、それは第一の誘惑では欠けていた誘惑の根拠が第二の誘惑からは加えられているからである。ここではイエスに対抗して、悪魔も聖書の言葉を引用している。

㉓ 13節

「終えて」は2節の「終わって」と同じ言葉である。四十日の断食を終えたイエスを試みた悪魔は、それを終えると、「時節」まで離れてゆく。

② 霊の導き、悪魔の試み（1―2節）

㉑ イエスは一方では霊に「導かれ」、他方では悪魔によって「試みられ」る。「荒れ野」は霊の導きと悪魔の誘惑とが対決する場である。霊と悪魔の対峙は私たちの日常にも見られることだが、そのような「荒れ野」にイエスがまず立ち、私たちに道を示す。

③ 石をパンに（3―4節）

㉒ 悪魔は「もしあなたが神の子なら…」と語り出し、「神の子」であるための条件を示す。空腹を満たすために「石をパンに変える」人、それが悪魔の考える「神の子」である。神の子なら、神から力を授かっているはずだから、その力を自分のために使って腹を満たすこともできるではないか、と悪魔は考える。

㉓ しかし、イエスは別の考えを持っている。神の言葉に従うイエスは、聖書の言葉を引用して、悪魔の誘いを退け、神の子としての力を自分のために利用しようとはしない。人を真に生かす命はパンからではなく、生ける神から来るとイエスは考える。空腹から脱却するために神の子としての力を使うなら、神の子とは呼べない者となる。

④ 全世界の権能を（5―8節）

㉔ 悪魔は最初の誘惑に失敗すると、自分の権能をちらつかせ、全世界の権能と栄光は「私に」ゆだねられており、それを「あなたに」あげると申し出でて、その条件として「私の前にひれ伏す」ことを要求する。

㉕ イエスは再び聖書の言葉を用いて、悪魔の誘惑を退ける。神の子がひれ伏す相手は「神」であり、仕える相手も神「だけ」である。

⑤ 身を投げよ（9―12節）

㉖ イエスが立つ根拠はいつも聖書の言葉である。4・8節の「書かれている」や12節の「言われている」は、いずれも聖書を引用するときに使う表現である。そこで悪魔も詩編91を持ち出し、ここから身を投げてみよ、神が助けてくれるにちがいない、と誘う。ここでも最初の誘惑と同じように、「もしあなたが神の子であるなら」と言う。この条件文は悪魔の考える「神の子」を暗に示している。悪魔にとって、神殿から身を投げられる者、それが「神の子」である。

㉗ しかしそれは神への信頼ではなく、むしろ、神を試すことであり、神への不信の表明だとイエスは考える。神を試験するということは、自分が造り上げた神の概念に合うかどうかを調べることにほかならない。イエスは「あなたはあなたの神、主を試さないだろう」という聖句を引用して、悪魔に答える。

◎並行箇所のマタイ4章5節では「聖なる都」とある。ルカが「聖なる都」を「エルサレム」に変えたとすれば、彼の神学に合わせるためだろう。ルカにとってエルサレムは受難と復活の場所であり、よみがえったイエスが弟子と出会う場所であり、救いの出来事にとって中心的な場所である。また、悪魔による三つの誘惑はその順序がマタイとルカでは異なっている。マタイが二番目とする誘惑をルカは最後においているが、これもエルサレムを強調するルカの神学に合わせるためかもしれない。もしそうであるなら、ルカは、悪魔による誘惑の物語によって、イエスの受難と復活（勝利）が予告されていると受け取っているのかもしれない。神の支配を告げるイエスの生涯には、さまざまな苦しみや試練があるが、神への信頼を捨てることがない。

### ⑥悪魔の一時退却（13節）

①三度の試みが「あらゆる試み」と言われている。この三度の試みは、イエスの生涯に起こるすべての試みを含んでいる。だから悪魔は一時立ち去るが、「時節」が来れば再びやって来る。そのクライマックスはサタンがユダに入るときである（二二3―4）。

### ②悪魔（ディアボロス）

⑦動詞ディアバツロー（訴える・中傷する）の派生語。形容詞として「中傷的な・口の悪い」の意味。多くは名詞として、「中傷する者・敵対者・悪魔」。この語は、元来はヘブライ語サターンの訳語として七十人訳で使われた。新約聖書では、サーターンから音写されたギリシア語の名詞サタナースと意味の区別なく使われる。ただし、マルコと真正のパウロ書簡では、もっぱらサタナースが使われ、ディアボロスの用例はない。

①悪魔は荒野でイエスを誘惑する者として登場する（2節以下、マタ四1以下）。悪魔のもくろみは、神の子についての誤った考えにイエスを引き入れ（3・9節）、イエスを神とのかわりから引き離すことにある（6節）。誘惑を退けられた悪魔はイエスを一時は離れるが（13節）、時が来るとユダの中に入り、裏切りのたくらみを抱かせる（ルカ二二3）。荒野野の場面に限らず、イエスはその宣教活動でも悪魔と戦い、悪魔に苦しめられている人々をいやす（使一〇38）。神の子であるイエスは、悪魔の働きを滅ぼすために現れたのである（1ヨハ三8）。

### ⑦神の子とは

①悪魔は神とイエスとの関係を断ち切ろうとしてイエスを試みるが、イエスは悪魔の誘惑をすべて聖書の言葉で退ける。神の言葉を口にすることによって、イエスは神への信頼を明らかにする。

②十字架上のイエスを嘲る人たちは、「もしあなたがメシアなら」自分を救ってみろ、とののしった（二三35）。彼らの考える「メシア」は、十字架から降りることのできる者のことである。しかしイエスは十字架を降りようとはしない。降りられないからではなく、イエスは降りないのである。降りないことによってイエスはメシアなのである。「私たちの罪のために」死ぬことこそ神の救いの計画である。荒野野に現れた悪魔は自分が考える「神の子メシア」像から一步も抜け出せない人々の予型である。

◎イエスにとって神の子とは、人が求める奇跡を行う者、神からの力を自分のために用いる者ではなく、神の言葉に忠実に生きる者である。イエスは石をパンに変えることも、屋根から飛び降りることもできる。だがそれは、神の指示があるときだけである。神の言葉を聞き、神の思いに従って生きる者が神の子、メシアなのである。